

生きた化石

メタセコイア(アケボノスギ)

(May 15, 2007)

メタセコイアは成長が早く、1年間に1mも成長します。写真1は科学館で育っているメタセコイアですが、高さが約15mもあります。建物では5階くらいの高さになります。樹形も美しいです。

メタセコイアとは、どんな樹木なのでしょうか？

【発見の歴史】

1939年(昭和14年)、大阪市立大学教授の三木茂博士はセコイアに似た植物化石を発見し、「メタセコイア」と命名して1941年に学会に発表しました。メタセコイアは新生代第三紀(6,500万年前～200万年前)に栄えていた植物です。当初、化石しか発見されていなかったため、絶滅種とされていました。しかし、1946年、中国の四川省で現存種が発見され、「生きた化石」として当時一躍有名になりました。

1949年、種子から育苗していたアメリカの博士から天皇に献上されたのが日本に入ったメタセコイア第1号です。翌年、100本の苗木がアメリカから送られ、それらの木から挿し木された苗が日本各地に広がり、学校等に移植されました。

姫路市では、船津町の故小林平一氏宅に実生(種から成長したもの)や挿し木で生育したメタセコイアがあり、姫路市の保存樹に指定されています。



写真1 科学館にあるメタセコイア

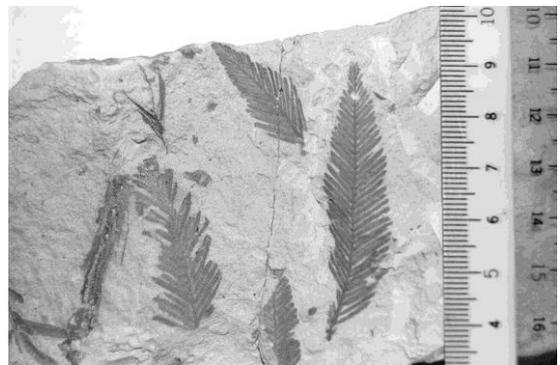


写真2 メタセコイアの化石(科学館所蔵)

写真3 メタセコイアの保存樹
(姫路市船津町)

[学名]

メタセコイアはスギ科の植物です。学名は「*Metasequoia glyptostroboides*」です。「メタ」とは「変化した・異なった・後の」という意味ですので、「メタセコイア」とは「セコイアとは（似ているが）違ったもの」というような意味になります。

和名は「アケボノスギ」です。日本では、和名はあまり流布せず、属名をそのまま読んで「メタセコイア」と呼ばれることが多いです。

[特徴]

メタセコイアの名前の元になったセコイアも背が高く、アメリカ合衆国カリフォルニア州レッドウッド公園にあるセコイアは、高さが 83.8m、直径が 5.3m もあり、世界一高い樹木として有名です。

メタセコイアは冬に落葉しますが、セコイアは常緑です。また、葉の付き方は、メタセコイアは二列対生（葉が 2 枚ずつ対になって生えている）ですが、セコイアは互生（葉が互い違いについている）です。

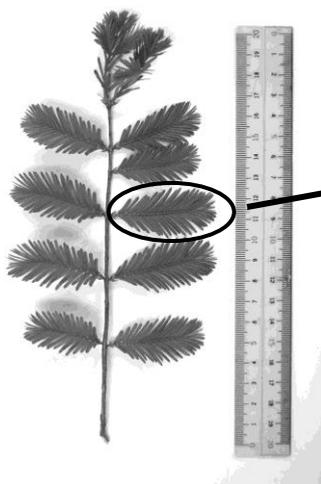


写真4 メタセコイアの枝

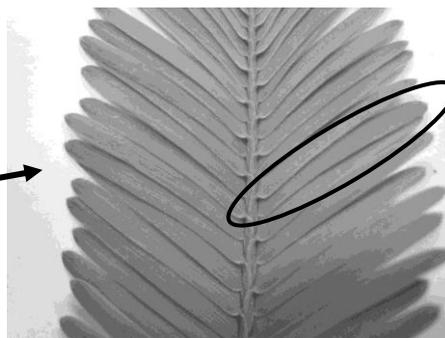


写真5 メタセコイアの葉の形状（二列対生になっている）

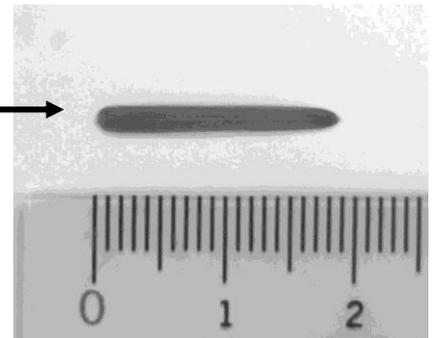


写真6 メタセコイアの葉（これが、1枚の葉）

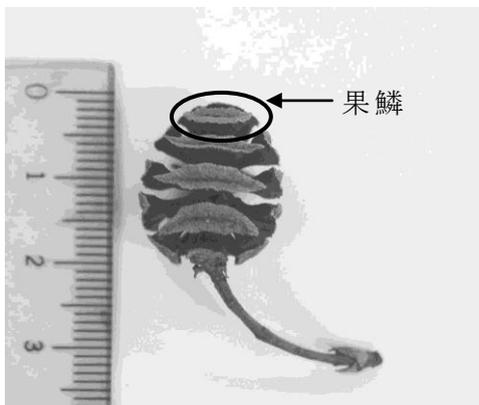


写真7 メタセコイアの球果

メタセコイアには雄花と雌花があります。4月に咲き受粉した雌花が成長して球果ができます（写真7）。球果とは、裸子植物の内、マツ科、スギ科、ヒノキ科等がつける実のことです。「まつぼっくり」はマツの球果です。メタセコイアの球果は角状球形で、径が 16~22mm、果鱗は十字型対生です。球果の中に約 20 個の種子ができます。種子は 10 月頃に熟し、その後、球果からこぼれ、風に乗って飛んでいきます。

西影裕一（姫路科学館）

《〒671-2222 姫路市青山 1470 番地 15 姫路科学館発行 TEL 079-267-3962》